

「弥生犬」調査研究事業について

青谷かみじち史跡公園

1 目的—なぜ弥生犬を研究するのか—

青谷上寺地遺跡からは、全国最多となる88個体分の弥生時代の犬骨が出土しています。

人との関りが深い犬はその時代の人間社会を反映する動物であり、これらの犬骨は本格的な稲作が始まり、人々の生活や社会が大きく変化した弥生時代を知る重要な資料です。

「弥生犬」調査研究事業は、弥生犬の研究を通して弥生時代の成り立ち、生活、文化を解明することを目的として行います。

2 事業の概要—何を行うのか—

「弥生犬」調査研究事業では、令和8年度から令和9年度にかけて青谷上寺地遺跡から出土した犬骨と、国内の弥生時代犬骨、韓国の弥生時代併行期の犬骨との比較を通して、弥生犬の特徴を明らかにしていきます。

そして、この調査研究成果をもとに、青谷上寺地遺跡で出土した「弥生犬」の骨格復元模型と生体復元模型を製作します。

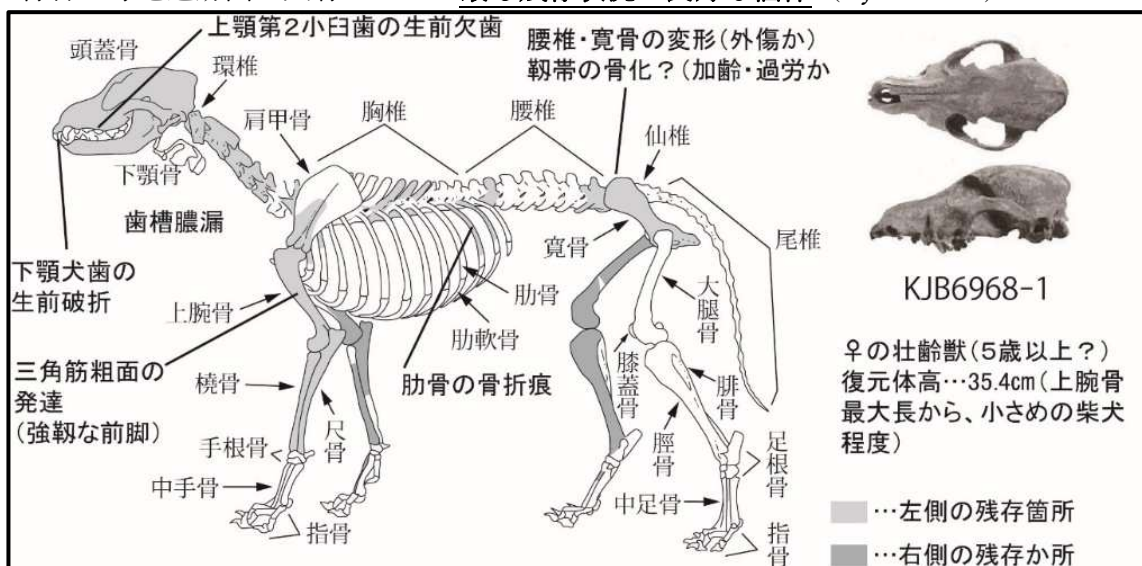
令和8年度（1年目）：国内・韓国の犬骨資料調査、全身骨格復元

令和9年度（2年目）：生体復元模型製作、シンポジウム

3 骨格復元模型と生体復元模型

(1) 復元の対象

青谷上寺地遺跡出土犬骨のなかで**最も残存状況が良好な個体**（KJB6968-1）



(2) 骨格復元模型

青谷上寺地遺跡出土犬骨をスキャンして得られた3Dデータを編集・出力して作製した各部位のレプリカを組み上げて復元した全身骨格模型。

(3) 生体復元模型

復元した全身骨格に肉付けする手法によって青谷上寺地遺跡出土犬の生前の姿を精巧に復元した模型。

- ※ 復元した全身骨格に肉付けする手法で製作された出土犬の生体復元模型は、大阪府八尾市の亀井遺跡出土犬（弥生時代、愛称「海渡」）と、奈良県桜井市の纏向遺跡出土犬（古墳時代、愛称「こまき」）の2例のみです。
- ※ 復元した全身骨格に加えて、別に行うDNA分析によって遺伝的情報が得られれば毛色や尾の形状なども可能な限り復元します。DNA情報も加味した生体復元模型となれば全国初かつ、極めて学術的価値の高い復元例となります。